

平成27年度(平成28年3月期) 連結決算状況

・損益状況 (金額:単位 百万円)

| | H26年度 | | | H27年度 | | | 年度差異 |
|-----------------|--------|--------|------------------|--------|--------|--------------------|--------|
| | 上期 | 下期 | 年度 | 上期 | 下期 | 年度 | |
| 売上高 | 34,452 | 33,225 | 67,678 | 28,877 | 25,800 | 54,677 | 13,000 |
| 営業利益 | 3,820 | 5,265 | 9,085 | 3,706 | 4,393 | 8,100 | 984 |
| 経常利益 | 3,909 | 5,232 | 9,142 | 3,843 | 4,441 | 8,284 | 858 |
| 特別利益 | - | 363 | ¹ 363 | - | 3,828 | ³ 3,828 | 3,464 |
| 特別損失 | - | 57 | ² 57 | 651 | 550 | ⁴ 1,201 | 1,144 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 2,517 | 3,697 | 6,215 | 2,088 | 8,262 | 10,350 | 4,134 |

- 1 固定資産売却益 255、投資有価証券売却益 108
 2 固定資産売却損 57
 3 東京製鐵子会社化による負ののれん発生益 3,575、 新北海製鐵清算結了による関係会社清算益 253
 4 大阪地区生産最適化に伴う事業構造改善費用 641、 西日本熊本工場電炉ダスト再資源化処理設備の休止に伴う事業構造改善費用 560

| H28年度見通し | |
|----------|-------|
| 上期見通し | 年度見通し |
| 未定 | |

当期の概況

当社の属する普通鋼電炉業界においては、主原料であるスクラップ価格は低位に推移したものの、国内鋼材需要の低迷および海外鋼材市況の下落から、販売面では厳しい状況が続いた。

このような状況において、当社グループは、経営の最重要課題である省エネルギー・省電力20%達成に向け、製鋼工程から圧延工程への鋼片直送率の維持を図るとともに、堺工場において取鍋予熱用高効率バーナーを導入し、西日本熊本工場において電炉排ガス分析装置を設置するなど、省エネルギー設備導入を鋭意進めてきた。加えて、大阪恩加島工場および堺工場の圧延工程において実稼働率向上に努め、エネルギー使用量を大幅に削減することができた。また、現場・現物に根ざした操業努力による徹底したコスト削減にも取り組んできた。

一方、将来に向けて国内事業基盤を強化すべく、生産体制の最適化を図ることを狙いとして、平成28年3月末をもって、大阪恩加島工場の製鋼工程を休止し、鉄源(製鋼工程)を堺工場へ移管した。また、平成28年3月24日をもって、関東地区に生産拠点を有する東京製鐵株式会社を連結子会社とした。

さらに、今後の成長戦略として、インドネシア国営製鐵会社クラカタウ社との合併会社PT.KRAKATAU OSAKA STEEL(以下、KOS社)の新工場について、本年秋の稼働を目指し建設工事を着実に進めてきた。

なお、清算手続きを進めてきた連結子会社である新北海製鐵株式会社について、平成28年2月26日をもって清算結了した。

経常損益の対前期差異の内訳は以下の通り。

| | |
|---------------|--------------|
| (1) 販売価格低下 | (× 8 2 億円) |
| (2) スクラップ価格低下 | (9 3 億円) |
| (3) 生産・出荷減少 | (× 1 2 億円) |
| (4) エネルギー価格下落 | (1 2 億円) |
| (5) コスト改善 | (× 4 億円) |
| (6) 払出差額等 | (× 1 5 億円) |
| 計 | (× 8 億円) |

特別損失は、東京製鐵株式会社を連結子会社としたことによる負ののれん発生益等を特別利益として計上し、大阪地区生産体制の最適化および電炉ダスト再資源化処理設備の休止に伴う事業構造改善費用を特別損失として計上している。また、新北海製鐵株式会社の清算結了に伴う繰越欠損金の引継により当社税負担が減少している。

期末配当については一株あたり37.5円とし、中間配当12.5円と合わせ年間50円とする予定。

次期の見通し

当社グループを取り巻く経営環境は、鉄鋼需要の伸び悩みに加え、コスト面についても、低位に推移していたスクラップ価格が反転・上昇する中で、再生可能エネルギー発電促進賦課金の値上がりにより電力コストが増加するなど、厳しい状況が続くと思われる。

こうした経営環境の下、当社グループは、コンプライアンスの更なる強化・充実を図り、安全・環境・防災に関するリスク管理を一段と強化しながら、企業としての信頼性を高めていく。また、業界のコストリーダーの実現を目指して、現場・現物に根ざしたGoZERO活動を深化させ、省エネルギー・省電力を軸として、着実にコスト改善を実行するとともに、品質向上を目的とした設備強化や新商品の開発など、商品力強化・差別化を一段と推進し、「商品力アジア 1」を目指していく。

これらの取り組みに加え、連結子会社とした東京製鐵株式会社と機動的かつ効率的に事業を遂行し、東日本と西日本にそれぞれ生産拠点を有する両社の提携による生産構造の更なる効率化を通じ、コスト競争力の向上および品揃え・デリバリー等の対顧客サービスを強化するなど、シナジー効果を発揮していく。また、今後の成長戦略として、インドネシアにおけるKOSプロジェクトを鋭意実行・推進していく。

なお、当社グループの次期連結業績見通しについては、本年4月に発生した平成28年熊本地震の及ぼす影響が不透明であることから、合理的な予想が可能になった時点で速やかに開示する。

・貸借対照表(連結)

(百万円)

| | H27.3E | H28.3E | 増減 | | H27.3E | H28.3E | 増減 |
|------------------|--------------------|--------------------|------------------|------------|---------|---------|--------|
| 流動資産 | 99,487 | 99,939 | 452 | 流動負債 | 14,158 | 11,017 | 3,140 |
| 現金同等物 (内 預け金) | 58,090 (55,543) | 59,961 (57,491) | 1,870 (1,948) | 支払手形・買掛金 | 6,304 | 5,167 | 1,137 |
| 受手・売掛・未収 棚卸資産 | 19,569 11,183 | 18,582 10,189 | 987 994 | 1年内返済長期借入金 | - | 119 | 119 |
| 関係会社短期貸付金 その他 | 10,000 643 | 10,000 1,206 | - 562 | 未払金 | 2,597 | 3,547 | 949 |
| | | | | 未払法人税等 | 2,993 | 473 | 2,520 |
| | | | | その他 | 2,262 | 1,709 | 552 |
| | | | | 固定負債 | 3,832 | 4,529 | 696 |
| | | | | 繰延税金負債 | 1,930 | 1,886 | 44 |
| | | | | 長期借入金 | - | 253 | 253 |
| | | | | 事業構造改善引当金 | - | 573 | 573 |
| | | | | その他 | 1,902 | 1,815 | 86 |
| | | | | 負債合計 | 17,990 | 15,546 | 2,444 |
| 固定資産 | 47,840 | 56,692 | 8,851 | 株主資本 | 127,336 | 136,401 | 9,064 |
| 有形固定資産 | 46,180 | 54,584 | 8,403 | 資本金 | 8,769 | 8,769 | - |
| 無形固定資産 | 15 | 50 | 35 | 資本剰余金 | 10,648 | 10,648 | - |
| 投資その他の資産 | 1,644 | 2,057 | 413 | 利益剰余金 | 112,450 | 121,516 | 9,065 |
| 投資有価証券 | 1,364 | 1,569 | 205 | 自己株式 | 4,532 | 4,533 | 1 |
| その他 | 280 | 488 | 208 | その他の包括利益 | 856 | 701 | 154 |
| | | | | 非支配株主持分 | 1,144 | 3,983 | 2,838 |
| | | | | 純資産合計 | 129,337 | 141,085 | 11,748 |
| 資産合計 | 147,328 | 156,632 | 9,304 | 負債及び純資産合計 | 147,328 | 156,632 | 9,304 |

・キャッシュ・フロー(連結)

(百万円)

| 財政状態 | |
|--|--------------------------------|
| (1) 総資産は1,566億円と対前期末93億円増加。 | 税金等調整前当期純利益 10,911 |
| (2) 現金同等物(600億)と関係会社短期貸付金(100億)を加えた実質現預金は700億円。 | 減価償却費 2,400 |
| (3) 純資産は、当期純利益確保等により1,411億円と117億円の増加。 (1株当たり純資産 3,522円) | 売上債権、仕入債務、未収入金の増減 2,101 |
| (4) 自己資本比率は、87.5%とほぼ前期末並み。 | 棚卸資産の増減 1,930 |
| | 法人税等の支払い 4,035 |
| | 特別損益事項 2,626 |
| | その他 817 |
| | 営業活動によるキャッシュ・フロー 9,864 |
| | 固定資産の取得による支出 3,240 |
| | 子会社株式の取得による支出 3,933 |
| | 関係会社貸付金の回収 10,000 |
| | 関係会社貸付 10,000 |
| | その他 48 |
| | 投資活動によるキャッシュ・フロー 7,125 |
| | 少数株主からの払込み 496 |
| | 配当金の支払等 1,363 |
| | 財務活動によるキャッシュ・フロー 867 |
| | 現金同等物に係る換算差額 1 |
| | 現金同等物の増加 (58,090 59,961) 1,870 |
| | <現預金+預け金> |

<参考情報>

| | (億円) | | |
|-----------|-------|-------|-------|
| | H25年度 | H26年度 | H27年度 |
| 設備投資額(工事) | 17.3 | 68.4 | 41.6 |
| 減価償却費 | 22.8 | 22.8 | 24.0 |

| | H26.3E | H27.3E | H28.3末 |
|------|--------|--------|--------|
| 在籍人員 | 687名 | 663名 | 822名 |